

ハイキング

猪熊隆之氏の天気図講習会に参加して

ハイジアルペンクラブ 坂田喜代美

平成26年1月26日 於東大宮コミュニティセンター

今夏に入会して間もない私ではございますが、以前から天気図の見方がわからず困っていた所の講習会でしたので、大変うれしく思い楽しみにしておりました。また、猪熊氏の「山岳気象大全」を拝読しているジャストタイミングでありました。

学生時代、夏山テント縦走の際ラジオを聞きながら天気図を書く、大変重要な事とも知らずに、また読解力も無く顧問の先生に怒られていた気象系の私です。ここ何年かで山登りを再開するようになって、気象庁の登山天気やピンポイント天気、ライブカメラ等々のネットは大変便利に使っておりました。

しかし、いざ登山してみると予想に反して好天の時は良いとしても、予想より悪天候になってしまったら、決して安全な登山とはいえません。

今回の講習では、気圧の谷や尾根から上層で吹いている風を知るという、初歩から丁寧に説明して頂きました。そして、大気中の水蒸気は風によって流されるもので、風の流れて低気圧や高気圧が流されながら移動していく。

風の向き(山の風上側)と等圧線の混み具合で悪天候を予測するというのを、実際にそれぞれが考えてみるという実習もさせていただきました。

さらに、風上側の天気予報の見方、そして3つのポイント予報から低気圧通過後に日本海側や脊梁山脈の山岳では大荒れの天候になり気象遭難(低体温症)のおそれが多くなることを、過去の山岳遭難の実例をあげて細かく説明して頂きました。

ふだん私達が見る地上天気図は高層天気図とは違うようで、2000M迄の山までしか使えないようで、3000M級は高層天気図の風の向き強さを見てほしいとのこと。特に私の中で印象に残ったのは、温帯低気圧が東へ進行するときは急速に天気が回復するが、北寄りに進行する時は荒天が続くという所です。

二年前に太平洋側と日本海側に低気圧が北寄りに進行していった、あの爆弾低気圧通過後のさなか残雪期の北八つに突入し、愚かにも撤退したのは無知で経験不足の私でございました。

他にも落雷による遭難事例、実際に稜線でどうしたらいいか?今までは這松に逃込むだけしか知らなかったが、寝そべらず出来るだけ低い姿勢で両足を閉じ(感電を防ぐ)両耳(鼓膜を守る)を塞ぐということも学びました。

